

第 49 回衆議院議員選挙に際して
LGBT (SOGI) をめぐる課題に関する
各候補者の政策と考え方に関する調査<調査票>

政党名 (立憲民主党)
選挙区 (大阪10区)
候補者名 (辻元清美)
〆 担当者の〆名前 ()
連絡先電話番号 ()

問1. 個人の選挙公約に性的指向・性自認に関する人権を保障する施策について記載はありますか。(選択式)

選択肢: ①記載がある
2.記載はないが、取り組む予定である
3.記載はなく、取り組む予定もない
4.その他()

問2. 超党派の「LGBTの課題を考える議員連盟」で今年5月に与野党合意に至った法案について賛成ですか反対ですか(選択式)

選択肢: ①賛成
2.反対
3.その他()

問3. 性的指向及び性自認に関する法整備について、いつまでに成立させるべきとお考えですか(選択式)

選択肢: ①早急に成立させるべきだ
2.法整備は必要だが、さらに検討を重ね、国民的合意を図るべきだ。
3.法整備の必要性について、引き続き議論すべきだ。
4.法整備は必要ない
5.その他()

問4.以下の各分野の課題について、どのようなスタンスでしょうか。(選択式)

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	その他/1-4 から選択肢を選んだうえでの補 足、等(自由回答)
(1) LGBT に対する(性的指向・性 自認に係る)、差別や不利益取扱い防 止・禁止する法律やルールを制定すべ きだ。	①	2	3	4	
(2) 学習指導要領に盛り込み義務教 育の中で性的指向・性自認の多様性 について子ども達に教育すべきだ。	①	2	3	4	
(3) 学校における、LGBT へのいじ め・ハラスメントの防止体制を確立す べきだ。	①	2	3	4	
(4) 多様な性自認・性的指向に基 いた適切な対応ができるよう、教育現 場や医療現場など各分野の実態調査を 行い、結果を公表すべきだ。	①	2	3	4	
(5) 性的指向・性自認に関する職場 の取り組みについて、国が広くガイ ドラインを策定するなど、企業等の取 組みを積極的に支援すべきだ。	①	2	3	4	
(6) 困難を抱く「LGBT」等当事者 に対する、相談・支援の仕組みを、学 校・職場・地域等に整備すべきだ。	①	2	3	4	
(7) 相続や各種の保障などについて 民法上、同性パートナーが配偶者 として扱われないことで生じる不利益を、 同性パートナーも配偶者として同等に 扱うことで、解消すべきだ。	①	2	3	4	

(次のページへ続きます)

問 5.性同一性障害特例法の見直しについて、下記の背景を踏まえて、お答え下さい。(選択式)

〔背景〕

戸籍の性別変更の要件は、性同一性障害特例法(2003年成立、2008年改正)で定められています。しかし、海外の現状と比べると要件が厳しすぎると指摘されています。現在要件外の当事者についても、円滑な社会生活を行えるよう、改正を求める強い要望が当事者団体などから出されています。たとえば、

・「現に未成年の子がいないこと(子なし要件)」に関して

→未成年の子どもがいても、子どもが親の外見等の変更を受け容れていたり、円滑で安定的な就労による子の扶養のためにも、性別変更が望ましいと思われるケースが少なくない。性別変更を認める諸外国(イギリス、フランス、イタリア等)では、こうした要件を課す国はない。

・「手術要件」に関して

→既に海外では手術を性別変更の要件にしない国が増えつつある(現在B1ヶ国)。WHOの勧告にあるように、戸籍の性別変更手術を要件とすることは、人権上問題である。また身体的・経済的負担が非常に大きいことから問題であり、外すべきである。加えて、たとえば卵巣はあるが子宮がない(あるいは機能していない)ような場合にも手術を必要とするのは、不適切である。

・「非婚要件」に関して

→特例法では性別変更にあたり「現に婚姻していないこと」を要件にしています。この「非婚要件」については近年ヨーロッパ諸国を中心に同性婚が認める国が増え、そのような国々を中心にこの要件は廃止となっています。

	積極的に 見直して 改正すべ き	改正が必 要か否か 検討すべ き	見直す 必要は ない	答えら れない ／わか らない	その他／1-4 から選択 肢を選んだうえでの補 足、等(自由回答)
(1) 子なし要件を削除し、家庭裁判所による個々の事情を踏まえた判断にゆだねる	①	2	3	4	5
(2) 手術要件を削除する	①	2	3	4	5
(3) 必要な関連法改正を行ったうえで、非婚要件を削除する	①	2	3	4	5

(次のページへ続きます)

問 6. 最後に感想や、当事者やその家族の皆さんへのメッセージなど自由にコメントをお願いします。

この間、性的指向及び性自認に基づく困難の解消に向けて当事者の声を聞き、取り組みを進めてまいりました。今年の5月には超党派の「LGBTに関する課題を考える議員連盟」において、与野党で合意案がまとまりましたが、各党の審査において自民党だけが党内がまとまらず提出にいたりませんでした。

これまで、多くの当事者の声を聞いてきました。生涯にわたって抱えうる困難の事例は枚挙にいとまがありません。「自分が当事者なんじゃないか、どうやって生きていけばいいのだろう」と、この先の人生が見通せず悩んでいる中高生、身近なところに仲間を見つけられず、もがいている若者、職場でSOGIハラスメントを受けて離職につながってしまった方、カップルで過ごしていても法的な保証がなく不安を抱えている方、職場で、家庭で、学校で、ありのままの自分をさらけ出せずにいるすべての方たち、そんなたくさんの悲痛な声を聞いてきました。与野党の合意案はこうした困難を全て解決するには不十分な内容ではありますが、何とかまとまった合意案ですら、自民党は一部の反対派の声の方を優先し、党として合意をしませんでした。国会の日程で難しいと、自民党は言いましたが、そんなことはありません。私は国対委員長をやっていました、与野党合意から数日で成立させた法案だってあります。SNSを通じて「諦めるのは早い」と発信をしましたが、できませんでした。つまり、いつまで待っても、この課題については自民党としては真剣に取り組めないということです。その後も、インターネット上ではトランスジェンダーをターゲットに、パッシングしたり、排除したりしようとする心無い差別の言葉が飛び交うようになっています。そして、それを野放しにしたり、それによって支持を得ようとしたりする政治家がいるのはとても残念なことです。それらの言葉に傷つき、失われる命があるかもしれないと思うと、居ても立っても居られません。そんな今の状況には、一人の政治家として、一人の人間として、はっきりとNOと言い続けなければなりません。私たちはもうすでに共に生きているし、これからも支えあって生きていくという決意をこれからも伝え続けたいといけなく思っています。

私たち、立憲民主党はカミングアウトしている人にとっても、カミングアウトしていない/できない人にとっても、環境が良くなり、自由にのびのびと生きられる社会に向けて、全力を尽くします。

アンケートは以上となります。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。